

建築士試験別・指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数(2018年度入学～)

指定科目分類 (取得単位数)	科目名	推奨セ マスター	単位数	必要単位数					
				一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
①建築設計製図 (単位)	建築デザイン演習1	1	4	7単位以上			5単位以上		
	建築デザイン演習2	2	4						
	建築デザイン演習3	3	4						
	建築デザイン演習4	4	4						
	建築デザイン演習5	5	4						
	建築デザイン演習6	6	4						
	デジタルデザイン演習	2	2						
	建築構造製図	6	2						
②建築計画 (単位)	建築デザイン入門	1	2	7単位以上			7単位以上		
	空間計画	2	2						
	建築計画A	3	2						
	建築計画B	4	2						
	日本建築史1	3	2						
	日本建築史2	4	2						
	西洋建築史1	4	2						
	西洋建築史2	5	2						
	近現代建築史	6	2						
建築文化史	7	2							
③建築環境工学 (単位)	建築環境工学・演習	3・4	4	2単位以上					
	建築環境計画・演習*	5	4						
④建築設備 (単位)	建築設備	5	2	2単位以上					
	建築設備計画	6	2						
	建築設備設計演習	6	4						
⑤構造力学 (単位)	建築構造力学1A・演習	2	4	4単位以上					
	建築構造力学1B・演習	3	4						
	建築構造力学2・演習※	5	4						
	建築構造解析・演習※	6	4						
⑥建築一般構造 (単位)	建築鉄筋コンクリート構造・演習※	4・5	4	3単位以上			6単位以上		
	建築鋼構造・演習※	4	4						
	建築耐震工学※	5	2						
	建築基礎構造	6	2						
⑦建築材料 (単位)	生産・構法実験	3・4	2	2単位以上					
	建築材料	5・6	4						
⑧建築生産 (単位)	生産・構法	1・2	4	2単位以上			1単位以上		
	建築施工	6	2						
⑨建築法規 (単位)	建築法規	3	2	1単位以上			1単位以上		
⑩その他 (単位)	建築測量実習	1・2	2	適宜			適宜		
	まちづくり	5	2						
	都市計画	6	2						
	都市デザイン	7	2						
①～⑩の合計単位数(単位)				60 単位以上	50～59単位	40～49単位	40 単位以上	30～39単位	20～29単位
試験合格後、資格登録に必要な実務経験				2年	3年	4年	0年	1年	2年

(確認手順)

①～⑩の各区分の中で取得した単位数を合計する。

それぞれの単位数が右側の必要単位数以上であれば、各欄に○を付ける。(二級・木造建築士試験では②～④や⑤～⑦の合計でチェックする)。

①～⑩の合計単位数についてもチェックする。

○が上から下まで続いた列の最下行に書かれた年数が、試験合格後の資格登録に必要な年数になる。(1つでも○が付いていないとダメ)。

(注意事項)

※が付いた科目は建築構造力学1A・演習または建築構造力学1B・演習を修得していないと単位が取れない先修条件が付いている。

→一級建築士受験のためには、建築構造力学1A・演習または建築構造力学1B・演習は、いずれかを絶対に修得しなくてはならない。

*が付いた科目は、建築環境工学・演習を修得していないと単位が取れない先修条件が付いている。

→一級建築士受験のためには、建築環境工学・演習を絶対に修得しなくてはならない。

建築法規を修得しないと、建築士の受験資格は得られない。